第５５回　近畿児童養護施設研究協議会　神戸大会　開催要項

１．大会テーマ

「こどもまんなか社会の実現のために私達が果たすべき役割とは」
～児童養護施設の大切なＡ・Ｒ・Ｅ～

２．目的

令和５年４月に、こども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会」を目指すという国の大きな指針が出された。日本のすべての子ども、若者が対象であり、ひとりひとりの権利が守られ、身体的、精神的、社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる社会を目指すこととなっている。

ここ近年、社会的養護を取り巻く状況も少しずつ変化し、児童養護施設に入所してくる子ども達の背景は多様化し、虐待だけにとどまらず、発達や愛着に課題を抱える子が増加。このようなケアニーズの高い子ども達を養育していくにあたり、これまで培ってきた専門性と経験に基づく児童養護施設としての「養育文化」が改めて必要とされ、期待されている。「こどもまんなか社会」を実現していくにあたり、改めて私達が積み上げてきた「養育文化」とは何なのか？を再確認し、それを共有して、施設で生活する子ども達に、そして地域全体に還元していくことが児童養護施設に求められている。

本大会では、私達が積み上げてきた「養育文化」をＡ・Ｒ・Ｅというキーワードを基に確認する場とし、こどもまんなか社会の実現に向けて学べる研究協議会としたい。

（キーワード）Advocacy（権利擁護）Aftercare（アフターケア）Attachment（愛着）
Relationship（関係）、Resilience（回復）
Empowerment（力を与える）、Environment（環境）

３．主催

近畿児童養護施設協議会
第５５回近畿児童養護施設研究協議会　神戸大会　実行委員会

４．後援（予定）

・全国児童養護施設協議会
・神戸市　・神戸市社会福祉協議会
・兵庫県　・兵庫県社会福祉協議会　・兵庫県児童養護連絡協議会

５．開催期間

令和６年６月２０日（木）～　２１日（金）

６．会場

◎全大会・分科会・交流会　会場　〒655-0047　神戸市垂水区東舞子町 18-11
シーサイドホテル舞子ビラ神戸　（TEL）078-706-3711

７．参加予定数

約２６０名

８．参加対象者

児童養護施設等職員、乳児院職員、行政関係者、児童相談所職員、児童福祉関連教育関係者

９．申し込み期限

令和６年５月２７日

１０．参加費等

大会参加費：１５，０００円

情報交換会：１０，０００円

宿泊費については別途案内をご覧下さい。

１１．連絡先

①大会運営に関すること

大会事務局　神愛子供ホーム　担当：副島　（TEL）　078-811-8698

②参加・宿泊・情報交換会に関すること

名鉄観光㈱神戸支店　担当：西村・二宮・礒野　（TEL）078-321-5005

１２．スケジュール

1 日目　6 月 20 日（木）

12:30　13:00　14:00　15:00　15:30　17:30　18:30　20:30

受付	開会式 表彰式	基調講演	休憩	分科会	休憩	交流会

2 日目　6 月 21 日（金）

8:45　9:00　11:00　11:30　12:15　12:30

受付	分科会	休憩	分科会報告	閉会式

第５５回　近畿児童養護施設研究協議会　　神戸大会
分科会一覧表

	第１分科会	第２分科会	第３分科会	第４分科会	第５分科会
テーマ	施設の養育とアドボカシー	施設の魅力発信と人材確保	こどもまんなかで考えるこれからの自立支援	児童養護施設の養育をひもとく	地域全体で考えよう、社会的養育と子育て支援
内容	要項参照	要項参照	要項参照	要項参照	要項参照
発題①	京都府 てらす峰夢 前田　規裕氏	大阪市 入舟寮 藤田　晋恵氏	京都市 京都聖嬰会 平岡　菜穂子氏	※1 日目講義 2 日演習	神戸市 実業学院 倉成　祥子氏
発題②	堺市 泉ヶ丘学院 中井　皇希氏	京都府 京都大和の家 岡本　直彦氏	和歌山県 旭学園 岩垣　直樹氏	追手門学院大学 益田　啓裕氏	※2 日目は 1 日目に出た意見を基にシンポジウム
幹事 副幹事	神戸市 天王谷学園	神戸市 双葉学園	神戸市 神戸真生塾	神戸市 神戸実業学院	神戸市 長田こどもホーム
座長	奈良県 天理養徳院 施設長 楠戸　貴之氏	大阪府 聖ヨハネ学園 施設長 宮脇　弘次氏	兵庫県 三光塾 施設長 瀧野　真継氏	神戸市 しらゆりホーム 施設長 金坂　雅弘氏	滋賀県 守山学園 施設長 谷村　太氏
助言者	神戸親和大学 大島　剛氏	チャイボラ 大山　遥氏	関西学院大学 馬場　幸子氏	四条畷学院短期大学 阪野　学氏	大阪公立大学 伊藤　嘉余子氏
記録	神戸市 夢野こどもホーム	神戸市 信愛学園	神戸市 神戸少年の町	神戸市 愛神愛隣舎	神戸市 神愛子供ホーム
会場係	兵庫県 立正学園	兵庫県 聖智学園	兵庫県 ルピナス高砂	兵庫県 播磨同仁学院	兵庫県 子供の家

第１分科会　「施設の養育とアドボカシー」

～ARE？子どもの意見を聞くだけが本当に最善なの？～

【趣旨】

子どもの最善の利益を考える上で、子どもの意見を聴くことはとても大切である。子どもの意見を聴けるように個別で話を聞く機会を設けるだけでなく、子ども会の開催や意見箱の設置等を含めて施設内で工夫をしながら実践している。子どもの意見が大切なのはもちろんであるが、集団での子ども達の生活を守ること、自立へ向けてのアプローチ等と相反することは現場ではよくあることである。

第一分科会では、日々の養育の中で抱える職員の葛藤や、現場での困り事を共有できるよう、事例を通して話し合い、児童養護施設の現場として「子どもの権利擁護・意見表明」をどのように受け止め、どのように対応していくべきか？を学べる分科会としたい。

第２分科会　「施設の魅力発信と人材確保」

～ARE ンジしながら職員一丸となって取り組め！～

【趣旨】

児童養護においては、高い離職率と慢性的な人手不足が課題となっている。しかも社会的には労働力人口の減少に加えて近年の景気回復に伴い、他の分野における採用意欲が増大し、条件面が良い職場に転職することが普通の時代である。このような状況の中で、将来にわたって福祉ニーズに的確に対応できる人材を安定的に確保していく観点からも、法人・施設管理職だけではなく、施設全体で魅力発信に取り組んでいかなければならない。学生、潜在的有資格者等へのアプローチの仕方を見直すとともに、新しいツールも活用しながら、あらゆる視点で人材確保のために講ずべき取り組みを整理し、児童養護施設で働くことへの魅力発信をどのようにしていくかを育成、定着の取り組みもあわせて考えていく分科会としたい。

（※）現場職員にも一緒に考えてもらいたいテーマのため、管理職以外の職員も積極的にご参加下さい。

第３分科会　「こどもまんなかで考えるこれからの自立支援」

～施設でしかできない専門性を持った組織で ARE！～

【趣旨】

社会的には少子化の影響から進学も就職も選ばなければ実現可能な時代となったが、施設を巣立った子どもたちが社会で生きていくには、まだまだたくさんの支援が必要である。インケアにおいても子どもの「強み」に着目しながら、日々の生活の中で興味・関心、できる・できない・できそう、等の自己選択、自己決定をしていく体験が、子どもたちの自立に繋がる支援となっていく。

また、「児童自立生活援助事業」が拡大することに伴い、措置延長や 22 歳を超えての支援継続もできるようになり、子どもたちの選択肢も広がりつつある。

この分科会では、本当の意味での子どもをまんなかにした自立支援とはどういうことなのか？を実践報告を通して共有し、皆で考える場としたい。

第４分科会　［児童養護施設の養育をひもとく］

～情熱と専門性を持ったペタゴーグでARE！～

【趣旨】

児童福祉法の改正、新しい養育ビジョン、更に都道府県社会的養育推進計画の見直し等々、子どもの養育の仕組みが出来つつある。しかし「こどもまんなか社会」といわれながらも地域での子育てはしにくく、不登校やヤングケアラーの増加等、社会的課題も浮き彫りになってきた。子どもの育ちは「生活が陶冶」すると言われているが、児童養護が７０年余り培ってきた子どもとともに生活してきた専門性を地域に多機能化の一環として発信していく必要がある。

ソーシャルペダゴジーの考え方は児童養護の養育実践と同様に「社会において、子どもを教え育むこと」と説明している。施設でチーム養育するために、そして教育現場、地域、家庭での子育てを包括的に行うためにソーシャルペダゴジーの概念を学び、日々の実践に結び付けるような分科会としたい。

第５分科会　　「地域全体で考えよう、社会的養育と子育て支援」

～私たちに求められていることと、出来る事…いや、やりたい事！～

♪　ARE もしたい、コレもしたい、もっとしたい、もっともっとしたい～　♬

THE BLUE HEARTS 「夢」より

【趣　旨】

施設で過ごす社会的養護が必要な子はもちろん、地域にはヤングケアラーおよび、ケアリーバーや不登校等で困難な課題を抱えている子ども達が増えてきており、地域全体で子育て支援をしていく必要がある。児童養護施設も地域での子育て支援の中心としての役割を求められているが、私達の養育文化･養育環境をどのように活用すれば､地域の子育て支援をしていけるのだろうか。

ショートステイ、一時保護委託の受け皿がユニットの一部屋という『家庭的』を掲げるには理不尽な現状や未だ続くマンパワー不足などで、ニーズに対して受け身にならざるを得ない状況が続いている。この分科会では既存の取り組みはもとより、この度改正が行われた児童福祉法からの課題にとどまらず、参加者一人ひとりが日々の業務で感じている地域に向けて必要な支援や、今すぐでなくても『やりたい！』と思える支援などを持ち寄り、語り合う場としたい。

そのため、日本だけでなく諸外国での実践等も大いに参考とし、枠にとらわれないディスカッションができる分科会としたい。

【一日目　基調講演】

基調講演：『凸凹（発達障害）を理解するための施設職員のこころがまえ』

講師：三木崇弘 氏

（児童精神科医、社会医療法人　恵風会高岡病院勤務、

漫画・TV ドラマ　リエゾン-こどものこころ診療所-　監修）

２０２０年より青年漫画誌「モーニング」（講談社）にて連載され、２０２３年１月より放送された TV ドラマである「リエゾンーこどものこころ診療所ー」の監修をされている児童精神科の医師です。著書の冒頭に「親はすごい（実際にやる人が一番えらい）」と日常生活のねぎらいの言葉から語り掛けます。「あるべき姿を思い描くこと」「でもそれがなかなか実現できないことを受け入れること」「それでも諦めずにまた子どもと向き合おうとすること」が大切ですと励ましてくださっています。

児童養護施設で働くわたしたちも子どもを選ぶことなく日々の養育に励んでいます。怒ったり、落ち込んだり失敗したり、逃げ出したりの日々ですが、それでもまた気を取り直して子どもたちと向き合っています。その様なわたしたち施設職員のこころがまえを語っていただき、一緒に考えていきます。